

居場所の大人にできること

- 子ども食堂篇II -

馬渡 徳子

2019年度より、私の講義を履修していた大学生と大学院留学生6人が、交代で主として学習ボランティアに参加している。彼らは、学習を積極的には勧めないで、「雑談時間を大切にしている、子どもたちから求められたら、宿題を一緒にやったり、イベントの準備作業を一緒にしたり」というスタンスを通してきており、ゆったりと子どもたちのそばにいての個別対応の場の方が多かった。

そこに、こんな変化がみられた。

昨年度末に厨房機器の修理をきっかけに出逢った社会人の青年が、会社の応援もあり、修理後もボランティアとして参加することとなった。

それまでは、昔ながらのボードゲームやカードゲームが数点あっても、子どもたちが他の子やボランティアの大人たちに呼びかけて、集団で取組もうとする場面があまりみられなかった。

ところが、3月にどちらかという

控えめにひとりの時間を過ごしてきた中学生が、「これ、面白いらしいよ」と持参した「人狼ゲーム」という心理戦のカードゲームが、今ちょっとしたブームになり、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人の青年たちが夕食後のまったりとした時間を過ごしている。

このカードゲームの盛り上げ役を最初にしたのは社会人の青年と大学生だった。

その後、子どもたちは、めいめいが自分の進行ノートや作戦を練って、ファシリテーターを交代で行っている。プレイヤーは、自分で質疑応答をどんどん工夫していて、観ていてなかなか面白い。

4月から参加したオーバー還暦世代の大人たちは、何度参加してもゲームのコツを掴めず、すぐに負けてしまう。にもかかわらず、子どもたちはそんな大人たちの反応を毎回面白がって誘ってくるので、誘われた大人たちは、ほいほいと張り切って参加して結果

すぐに負けるという展開となっていて、そこにまた笑いが生まれている。

そういえば、自分の子ども時代に、ボードゲームやカードゲームをするときは、お盆や正月に親戚が沢山集まった時や、ブームになったゲームを買ってもらえた友だちの家でやることぐらいだったなあとふりかえる。

そうそう、あの時、子どもたちが大人を負かすと嬉しかったっけ。

悔しいので、オーバー還暦世代で作戦会議を開いて、ギャフンと言わせたいよねと相談中である。

今日こそと
マスク外して
心理戦
またも読まれて
地団駄ひとつ